



第6回日本心臓リハビリテーション学会四国支部地方会  
会長 福田大和（医療法人大和会 一宮きずなクリニック 院長）  
（事務局：北川貴彦、福田あゆみ）

今年は寒く、梅の花も咲く時期が遅くなっていると聞きました。

第六回心臓リハビリテーション学会四国地方会の大会長を務めさせていただく開業医（院長）をしている福田大和です。開業医での学術集会の開催は前例がないと聞きましたが、人一倍心リハには思い入れがあること、病院と診療所で心リハを開設した経験があることが参加者にとって有益になると信じ、引き受けることにしました。学会を成立するために、多くの製薬会社や企業、私に関わってくださった多くの医師、友人、また当院のスタッフの支えがあって開催できることになり感謝してもしきれません。

最近、私の親友が「センスとは直感と経験の足し算である」、という持論を述べていました。そこで私は今回の学会のテーマを「思考の種子」としました。心リハのセンスを磨く学会にしたいという願いです。私が心リハを研鑽した頃は地方会などはなく、総会でも「老人ホームでTVゲームをする心リハをしたが特に効果はなかった」など今では演題としては見られない(?)ユニークな発表が多かったのですが、その熱量に絆され、私だけでなく当時の病院のチームは学会に行くことでモチベーションが上がったことが強く記憶に残っています。個人の感想ですが学会も成熟し、レッドオーシャン的な演題が多くなってきたと思っています。また私の経験上、以前より「多職種」が重要で当たり前、とされていますが、今後の心リハは「他科連携」が必須となるはずで、ある程度他科の考え方・スキルは開業するならば病院勤務時に身につけておく必要がある、と思っています。

「思考の種子」としたのは、私が論文にした「心リハを受けている患者さんの癌の罹患率」や、発表した「整形外科的疾患を持つ患者さんが7割以上」ということもあり、王道のレクチャーはもちろん、心リハとは一見関係なさそうだけでも、知っておかないと患者さんが不利益を被る可能性があると考え、問題提議的に参加者の方に考えてセンスを高めてもらうためのレクチャーを講師の先生にしてもらうことにしました。学会自体は、ブルーオーシャン的な内容を多くし、今までの学会とは講演内容は少し趣向を変えています、ファーストピンを外さないような構成にしています。

今回の学会において、参加者の心リハの引き出しが多くなり、日々の心リハが劇的に変わると信じています、多職種はもちろん、多くの他科の医師に助けられた「私」がそうだったように。

P.S) YIA は4月生まれが損であり、浪人生、職种的には医師が不利、出産したり育児をする女性が不利、と以前から思っており今回は開催しません。学術的に優れた発表に優秀賞をだすことはもちろん、熱量があり、独創的かつクリエイティブな発表には「特別賞」を用意しています。